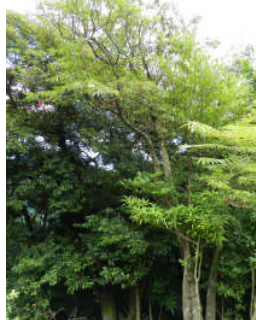




葉は濃緑色で革質、光沢がある。



前年枝の葉脇から横向きに花序を出す。



赤い葉が年中混じっている。

区別のポイント

葉は互生で葉身は楕円形で鋸歯がある。葉柄は葉身の1/2～1/3の長さ。葉は古くなると赤くなり、年中赤い葉が見られる。

形態 常緑高木。高さ10～15m。

分布 本州（紀伊半島・中国地方西部）・四国・九州・沖縄

名前の由来 葉がモチノキの葉に似ていて、形が楕円形で小判に似ることから。

葉 **〈全体〉**長さ6～10cm、幅3～5cmの楕円形または長楕円形。革質で光沢がある。

〈付き方〉互生。 **〈葉柄〉**3～5cmで上部はややふくらみ赤みを帯びる。

〈基部〉広いくさび形から円形。 **〈葉先〉**尖る。

〈縁〉浅い鈍鋸歯がまばらにある。

備考 本種は基本的に不嗜好種であるが、宮之浦地区では畷用餌に使用した実績があり、区分としては中に分類する。(嗜好種減少の結果と考えられる。)

出典 4, 26, 高槻, ※